

音楽部会

畠田 千津子

仲間と学び合い、豊かな文化を子どもたちに

東京民研音楽部会は、「教室・学校に、授業・学校行事を通して、豊かな文化を創造していきたい。学校こそ豊かな文化の発信場所に」との願いをずっと持ち続けています。このテーマのもと、授業研究を行い、教材や授業の組み立て等についての学びを深めてきました。また、教職員と協働した学校作りを考えたり、部員やいろいろな分野の実践者から学んだりする中で、音楽科としての教科の特性を明らかにしていこうと、部会・公開授業を開き活動してきました。

重ねてきて、やっと集まったのが、一月の東京教研でした。まとめの報告書から抜粋して紹介いたします。

「一月 東京教研 音楽教育分科会」

一月末、エデュカスを会場に「コロナ禍の中でも音楽の喜び、歌う喜びを求めて」のテーマで、音楽分科会が開催されました。

初めに共同研究者の松村さんから、夏に現地開催できなかった「2020教育のつどい（全国教研）」の音楽教育分科会に提出されたレポートの紹介と音源を聴くことができました。技能を身に付けることを真っ先にもってきた新学習指導要領とは違い、ひとりひとりの子どもたちが音楽の喜びを実感している様子を感じることができました。また、諸外国の教育事情の資料から、日本の教育条件の

この後、八人の部員が、実践レポートとテープを出し合いました。コロナ禍でも、工夫を重ね、教材を間に子どもと教師が心を通わせ、共に育つ授業、一人ひとりの思いや表現を受けとめ、喜びあふれる授業を考え、学び合いました。

音楽部会では、長年、東京民研や東京教研の学びの場で確かめられてきた教材を的確に子どもたちに手渡すことを提案しています。学校に豊かな文化を育て、人間らしく生きることができる学校創りをめざし、職場の中でもしっかりと根を張り、活動していきたいと思えます。

しかし、今年度は、コロナ感染症対策による二度にもわたる緊急事態宣言が出された中、「歌う」という活動が制限され、部員が集まることもなかなか叶わず、例年行ってきた公開授業や公開講座は出来ませんでした。部員それぞれが、今までの学びを生かし、工夫した授業を

（公立小学校）